

この授業はいわゆる「送り出し教育」の一環として開講されている全学共通科目で、四年次の学生を対象に、大学でこれまで学んだ様々な事柄を応用して、学部の垣根を越えて、様々な角度から実践的な探求を試みようというものである。本年度選んだテーマは「超自然現象を科学的に検証する」というもので、これは幽霊・心霊写真・予言・超能力・UFOなど、いかにも怪しい超自然現象について、盲信するのではなく、頭から否定するのではなく、資料を探し、理論的に考え、科学的な考察を行って、懐疑主義的に検証しようという試みである。こうした検証には文系から理系まで、意外と広い知識が必要となる。受講した諸君はこうした趣旨をすぐに理解してくれたようで、それぞれが選んだテーマについて、こちらの期待したとおりに、色々な角度から調査を行い、また互いの発表を聞いて議論も交わしてくれた。心理学部の学生が錯視等の心理学用語を用いて説明したりと、全学共通科目としての面白さも味わえた。特に、ある種の都市伝説の矛盾点を見つけた時の楽しさ、面白さも感じてくれたようだ。

受講生が選んだテーマは「ニューネッシー」「心霊写真」「心霊動画」「心霊スポット」「口裂け女」「UFO」「バミュダ三角海域」「ナスカ地上絵」等である。例えば「バミュダ三角海域」の謎を巡っては、不思議な噂を集めるだけではなく、信じる信じないを問わずこのテーマについて考えるためには必ず参照しなければならない基本資料、ローレンス・D・クシュの『謎の三角海域』にきちんとたどり着いた。同様に「口裂け女」については、世代間による噂のディテールの差異を調査し、さらにエドガール・モランの『オルレアンのおわさ』などの著作にも言及されていた。その点では、本ゼミの目標の一つであった文献の探し方ということには一定の成果を見たように思う。

また「心霊動画」については、録画したテレビの投稿心霊ビデオ番組を全員で鑑賞し、一般人が偶然撮影して投稿したとされる動画の矛盾点について話し合った。その結果例えば、かなりの距離から撮影しているように見えるのに電話の着信音をはっきり録音されている、偶然撮影されたはずなのに人物が画面左寄りにいて、その後右から現れる自動車にあらかじめ配慮した構図になっている、自動車のヘッドライトの光がその傍にいる人物に当たっていない、ビデオに映っている人物への配慮のため字幕では（仮名）となっており、インタビューではピーという信号音で人名が消されているにもかかわらず、編集ミスのため一箇所だけ仮名であるはずのその人名を呼んでいる箇所がある、などいくつかの矛盾点に学生が気づいてくれた。このことは、この動画が偶然撮影されたものではなく、捏造・編集されていることを意味している。

このように、異なる学部の学生がそれぞれの知識を持ち寄り、超自然現象という一見学問的ではない話題を巡って調査力・推理力を発揮してくれて、学生だけではなく私自身も得るところが多かった。今後も色々な工夫を凝らしつつ、同様の授業を展開して行きたいと考えている。